



2024年3月6日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック  
代表者名 代表取締役社長 福永 健司  
(コード番号 2342 東証マザーズ)  
問合せ先 取 締 役 船 橋 泰  
(電話番号 03-6551-2601)

### 当社連結子会社の(株)安評センターにおける 新規受託サービス「中期発がん性試験」受託開始についてのお知らせ

当社連結子会社の株式会社安評センター（代表取締役社長：福永 健司、静岡県磐田市 以下、安評センター）は、短期間に高精度で化学物質の発がん性を予測する「中期発がん性試験<sup>\*1</sup>」について、このたび「中期発がん性試験」に習熟した研究員達による受託準備が整いましたので、本日より新規サービスとして受託を開始いたします。

安評センターがサービスを開始する皮膚、肝臓及び多臓器を標的とする「中期発がん性試験」は、医薬品規制調和国際会議（ICH：International Council for Harmonisation of Technical Requirements for Pharmaceuticals for Human Use）において長期がん原性試験<sup>\*2</sup>の代替法として推奨され、また厚生労働省の「医薬品のがん原性試験に関するガイドラインにも「がん原性検出のための *in vivo* 追加試験」として明記されています。

従前の化学物質の安全性試験として行われている長期がん原性試験は、多くの齧歯類を用いて3年以上の期間と莫大な費用を要しますが、「中期発がん性試験」は長期がん原性試験と同等の精度で開発時間の大幅短縮、開発費の大幅削減が可能なことから、農薬、医薬品等の研究開発メーカーの発がん性評価での需要が高い試験です。

安評センターは、CROとして主に医薬品、食品、食品添加物、農薬、飼料添加物、一般工業化学物質等の化学物質の安全性試験のサービスを提供しています。そして、これらの安全性試験の一環として、今回開始準備を行う「中期発がん性試験」は、既に提供している Muta マウス<sup>\*3</sup>を用いた遺伝子突然変異試験と共に高い技術力に基づく高付加価値の受託サービスとして発がん性関連領域の研究に貢献するものと期待しております。

当社グループは、今後も創薬支援企業として、競争力のある技術の導入、開発を積極的に進めてまいります。

◆ご参考：

※1 中期発がん性試験

中期発がん性試験は、発がん物質により正常細胞の遺伝子が障害される段階の「イニシエーション」と障害を受けた細胞が増殖する「プロモーション」の2段階を経て起こるとする仮説に基づく試験法です。イニシエーションとして発がん物質を投与して発がん標的臓器の細胞に変異細胞を形成させ、次にプロモーションとして変異した細胞が増殖して前がん病変が形成される程度を指標として発がん性の有無を評価するものです。

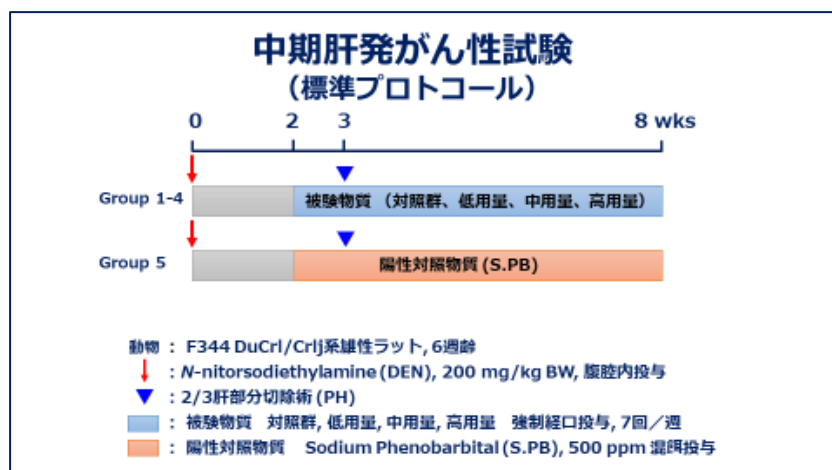
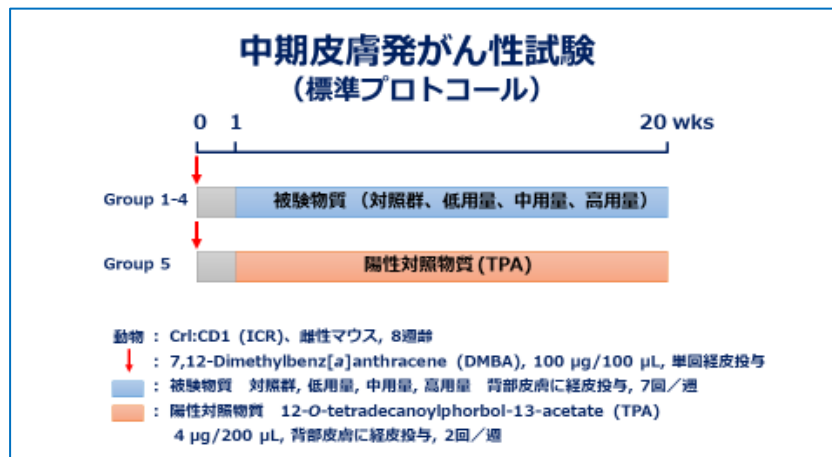
※2 がん原性試験

がん原性試験は、化学物質や製品が発がん性を持つ可能性があるかどうかを評価するための試験です。

※3 Muta マウス

Muta マウスは1989年にオランダTNO研究所で開発され、動物一個体の全細胞に組み込まれた標的遺伝子（レポーター遺伝子）上の変異を検出することで、多臓器にわたる遺伝子傷害性を評価することが可能となりました。遺伝子突然変異試験の *in vivo* 系として利用されています。

◆安評センターにおける中期発がん性標準試験プロトコール



◆参考文献

- 谷本学校 毒性質問箱/2016 巻 (2016) 18 号
- 〈レクチャー3-2〉 遺伝毒性・がん原性評価
- 3-2 発がん性評価における中期発がん性試験の位置付け